

<8.6 ヒロシマ国際対話集会 反核の夕べ 2018> ～核と人類は共存できない～

核被害を拡げないため、核被害の実態を明らかにし
核被害者への支援・原子力推進阻止を！
核をめぐる危機的現状を明らかにし
核兵器禁止条約の早期発効のため
国際連帯のもと国を動かしていこう！



- * 核開発による人類生存の危機を根っこから断ち切るべく、ウラン採掘、核兵器、原発、劣化ウラン兵器など核利用のサイクルによりもたらされている非人道的被害の原点から、あらためて「核と人類は共存できない」ことを確認し、国際的な連帯のネットワークを築くことを考える場にしましょう。
- * 安倍政権は福島の核災害に蓋をし、原発の再稼働・海外への原発輸出、核兵器保有の意図をも持つ使用済み核燃料再処理によるプルトニウムの備蓄など核利用サイクル政策を推進し「偽装の被爆国・日本」の姿を世界にさらしています。核利用サイクルの過程で引き起こされ、今なお拡大している甚大な核被害の問題、核戦争の危機を見据えることがヒロシマの課題です。
- * 核兵器廃絶のための核兵器禁止条約早期発効に向け国際的連携を図ること、まず日本などが署名批准し禁止条約を発効することが朝鮮半島の非核化につながるという展望を共有し、核兵器禁止条約に反対し国際的潮流に逆行している米トランプ政権や日本政府などにどう迫っていくか知恵を出し合ひましょう。

日時 : 8月6日(月) 14:30～17:30 (開場 14:00)

会場 : 合人社ウェンディひと・まちプラザ・6F マルチメディア・スタジオ

(広島市まちづくり市民交流プラザ) 広島市中区袋町 6-36 TEL 082-545-3911

パネリスト : 柴口 正武 福島県教職員組合双葉支部長 浪江町立浪江東中学校教諭 (浪江中兼務)

ジャンナ・フィロメンコ チェルノブイリ原発被害「移住者の会」代表

フィロメンコ

清水 弘士 被爆者 HANWA 運営委員

川崎 哲 核兵器廃絶国際キャンペーン・ICAN 国際運営委員

コーディネーター : 森瀧 春子 HANWA 共同代表 NO DU ヒロシマ・プロジェクト事務局長

資料代 : 700円 通訳有 (露⇔日)

共催 : 核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 (HANWA)

NO DU (劣化ウラン兵器禁止) ヒロシマ・プロジェクト

海外パネリスト・プロフィール

ジャンナ・フィロメンコ氏 / チェルノブイリ原発被害「移住者の会」代表

チェルノブイリ原発から北西 40km のベラルーシ共和国ゴメリ州ナローブリア出身。事故当時、夫と幼い二人の息子と暮らしていた。ナローブリアは高汚染地だったが、ソ連政府の施策のもと、人々は住み続けた。住民運動の結果、「チェルノブイリ法」(1991年)が制定され、同地区は「移住対象地域」となり、首都ミンスクの集合住宅の権利を得て家族で移住。「移住者の会」を結成。「事故15周年(2001年)」に来日。「30周年(2016年)」には、関西の国際シンポジウムなどに参加し、また福島被災地訪問。欧州各地でも体験を語り「核はコントロールできず、使ってはならない。誤りを繰り返さないで」と訴えている。



核兵器廃絶をめざすヒロシマの会 (HANWA)

共同代表 青木克明 足立修一 森瀧春子

広島市中区八丁堀 5-2-2 メゾン京口門 404号室 足立・西法律事務所内

e-mail: hanwa@e-hanwa.org TEL 090-9064-4705(森瀧)